みしまコミュニティ通信

第26号

令和3年3月発行

放課後児童クラブ

共働きなど留守家庭の子どもに対し、放課後に遊びや生活の場を提供します。

脇野町児童クラブ
登録児童数 72人

日吉児童クラブ
登録児童数 11人

（令和2年4月現在）

日吉児童クラブ

脇野町児童クラブ

みしまこどもの広場

（放課後子ども教室）

小学生の放課後がもっと充実するようにと、遊びやスポーツ、さまざまな体験活動を通して地域の活動サポーターと交流したり、学んだりする事業です。小学校の放課後だけでなく、土・日、長期休みにも実施しています。

平日のこどもの広場

体育館の自由遊びや運動体験、化学体験、紙芝居、ぼうずめくり、なわとび教室など

長期休みのこどもの広場

みんなで書道教室

化学体験

ぼうずめくり

ラダーゲッター

自由遊び

巨大だるま落とし

ダンス

みしまコミュニティ推進協議会
広報委員長
小熊美穂子

編集後記

今年度は、新型コロナウイルス感染症などの影響で、各部会の活動や行事など例年通りにはいきませんでした。皆様にコミセンの活動をご報告するこのコミセンだよりも、行事やイベントの写真掲載が少なくなり、大変残念に思います。新型コロナウイルス感染症が終息し、にぎやかな紙面作りができるよう祈るばかりです。

さて、先ごろ、三島地域全住民アンケートの結果が報告されました。その結果の中に、コミセン情報が上手く伝わっていないというご指摘がありました。我々広報委員会は、その結果を真摯に受け止め、コミセン新聞やHP・ブログなど、もう一歩踏み込んだ広報の方法を話し合い、実施していきたいと思います。

表紙の切り絵は、変わっていく生活様式に時々わずらわしさや不安を感じてしまうのですが、動植物の住む自然は私たちの目を和ませてくれます。身近にある何気ない自然の風景に、感謝の思いを込めて作りました。

みしまコミュニティ推進協議会
広報委員会

閭みしまコミュニティセンター事務室
平日8時30分～17時15分
〒940-2392 長岡市上岩井1261-1
電話：0258-42-2525
FAX：0258-42-3711
ホームページ
https://e-mishima.info/

令和２年度

みしまコミュニティ推進協議会
活動報告

運営委員会

ごあいさつ

みしまコミュニティ推進協議会
会長　難 波 光 男

新緑がまぶしい季節となりました。三島地域にお住まいの皆様方には、益々ご健勝のこととお喜び申しあげます。

現在、わが国を含む世界は、新型コロナウイルス感染症の拡大という難局に直面しており、まずはこの対応が喫緊の課題と認識するところであります。

また、誰もが感染するリスクがあるなか、たとえ感染しても地域のなかで笑顔の暮らしを取り戻し、それぞれの暮らしの場所で「ただいま」「おかえり」と受け入れられる、思いやりがあり暮らしやすい社会「みしま」を目指していきたいと考えております。

その為にも、まずは、昨年実施しました〝三島地域全住民アンケート〟の結果を分析し、地域が抱える具体的な課題に対して皆で取組むことから実施して行こうではありませんか。そして、「持続可能なまちづくり」を目指し、住民一人ひとりが主役となりそれぞれの特色や個性を活かし活動する事で、〝住んでよかったと実感できる三島〟となるべく取り組んでまいりたいと考えております。

新型コロナウイルスとの共存が長期化する事も覚悟しつつ、一日も早い事態の収束とレジリエント（柔軟）な三島地域に向けて邁進いたしますので、ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

まちづくり部会

クリーン作戦

総合学習

●環境美化活動
- ゴミ撲滅啓発活動　通年
- 緑化推進活動　通年
- アメシロ駆除用家庭用噴霧器貸出　5/18～9/30
- セイタカアワダチソウ撲滅作戦　6/21・10/4
- 三島中央公園クリーンアップ作戦　8/18・10/20

●まちづくり活動
- 地域団体への協力、支援　9/6
- 三島中学校総合学習（SDGs）への協力

●三島地域全住民アンケート
- 事前説明会　9/6
- 全住民アンケート配布・回収
  - 三島中学生　9/28
  - 三島地域全世帯　10/2～10/30
- 結果報告会　2/21

まちづくり部会 部員

学 習 部 会

チョークアート教室

ヒンメリ教室

●各種講座の企画運営
- 出前講座 お薬の話　10/20
- 年末を楽しむシリーズ
  - ヒンメリ教室　11/28・12/2
  - 廃材アート教室　11/26・12/13
  - ハカマ紙教室　12/5
  - チョークアート教室　12/6

●地域サークル支援・交流
- サークル紹介や募集
- 作品展示　11/19～12/24
- 新春囲碁将棋大会　1/24

●図書コーナー整備・充実
- 図書コーナー土日開放　8月の午前中

※共催：こども育成部会
- みしま民話プロジェクトDVD作成

コミセン作品展示

図書コーナー土日開放

学習部会 部員

こども育成部会

総合学習

●みしまこどもの広場協力　9月～2月
- みんなで書道　12/27
- ドッチビー　1/18
- ラダーゲッター　2/1
- ダンス教室　2/15・2/22

●学習支援
- 中高生自習室　8/3～8/21
- 数学無料講習　8/7・8/10・8/11
- 英語無料講習　8/11・8/12
- 読書習慣啓発活動　6/22
- 図書コーナー土日開放　8月の午前中

●多世代交流事業
- 三島中学校総合学習（SDGs）への協力

みんなで書道

こども育成部会 部員

福 祉 部 会

料理教室

情報講習会

●親子料理教室　12/12
- 食を通じて地域が喜んでもらえる福祉作り
  - パンダの太巻き
  - 具だくさんとん汁

●三島地域交流
- 三島中学校総合学習（SDGs）への協力

●地域の茶の間「次年度の助成金説明会」及び「情報講習会」
- ボランティア交流会　3/5

総合学習

総合学習協力

福祉部会 部員

健 康 部 会

骨盤体操

秋のウォーキング

●健康スポーツ体験会
（三島地域健康スポーツ習慣化プログラム講座フォローアップセミナー合同）

※共催：キラスポみしま
- ヨガ　9/26
- ピラティス　10/31
- 骨盤体操　11/14
- シェイプボクシング　12/19
- 太極拳　R3.1/16
- ステップ体操　R3.2/13
- 骨盤体操　R3.3/13

●ウォーキング
- 秋のウォーキング　10/17

※共催：キラスポみしま
- 正しい歩き方、整理体操を学ぶ
- ノルディックウォーキング体験

●キラスポ
クラブ教室体験会を随時開催

健康部会 部員

広報委員会

三島中学校総合学習（SDGs）活動展示

●みしまコミセンだよりの発行
- 第26号／事業報告

●みしまコミセン新聞の発行
- 108号～114号

●コミセンPR
- ホームページの管理・運営
- 三島中学校総合学習（SDGs）への協力活動展示
- Facebookの試験運用

広報委員会 委員

みしまの未来を考えるプロジェクト

三島地域「全住民アンケート」

三島地域では平成20年度に実施された行政アンケートから10年が経過し、その後の住民の生活は少子高齢化の中で大きく変化をしています。しかし、その実情はなかなか見えてこないのが現状です。

そこで、三島地域の中学生以上全住民を対象にアンケートを実施しました。このアンケートは、現在の地域の人々の生活状況や求めている事、困り事等の現状を把握し、未来に向け三島地域の中で取り組むべきことを考察するため、調査と分析を行うものです。

アンケートの分析結果をもとに、様々な団体や多様な世代、また、行政や地域委員会等と情報の共有を図り、話し合い検討する場を持ち、これからの三島地域の活性化に向けた取り組みに活かしていきます。

実施概要　実施時期：2020年10月　　実施方法：調査票の配布・回収

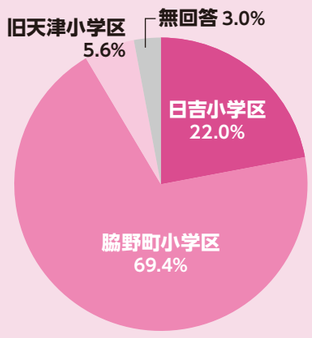
回答数

配　布　数：5,730通

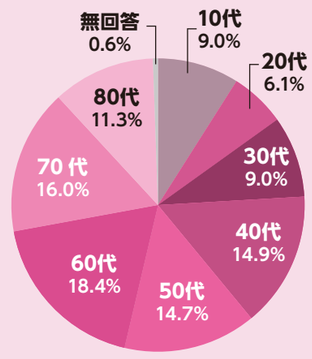
有効回答数：4,834通

有効回答率：84.4%

かなりの高回収率！



居住学区別回答者



年代別回答者

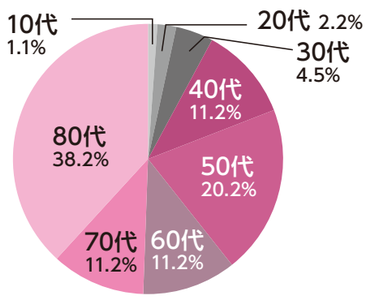
分析　特定非営利活動法人 都岐沙羅（つきさら）パートナーズセンター

都岐沙羅パートナーズセンターは、新潟県村上岩船地域（村上市、関川村、粟島浦村）において、広域圏の地域づくりを推進する中間支援組織です。中山間地域を含む地方部では、持続可能な地域社会づくりのためには、“継続性のある仕組みの構築”こそが大切です。私たちは、単なる活動支援に留まらず、多様な主体との連携・協働により、新たな事業や仕組みを主体的に生み出していく“事業プロデュース・コーディネート”にも積極的に取り組んでいます。

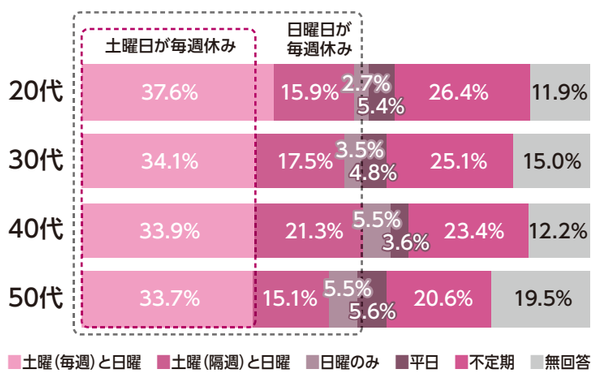
アンケート結果から見えるポイント

※アンケート結果一部抜粋

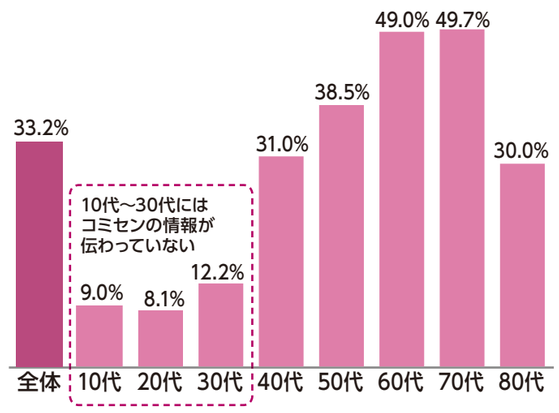
農業従事者の年代構成は？



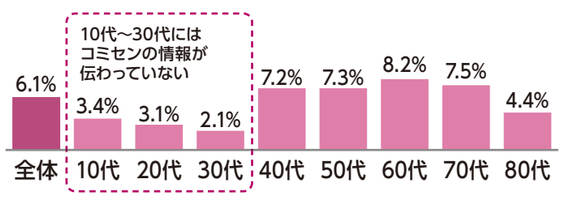
休日はいつですか？



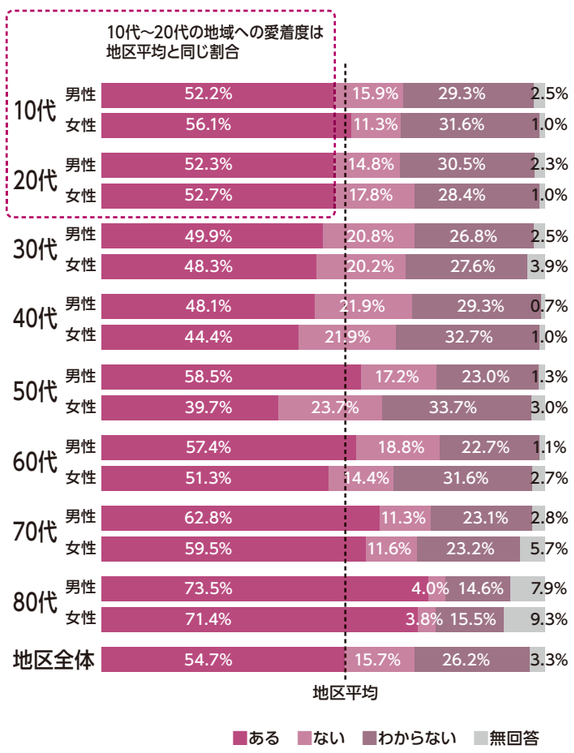
コミセン新聞の認知度



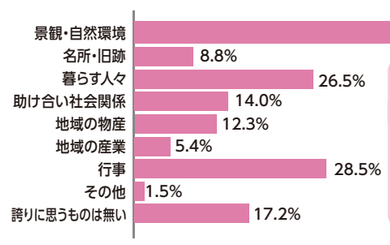
ホームページ・ブログの認知度



地域への愛着の有無



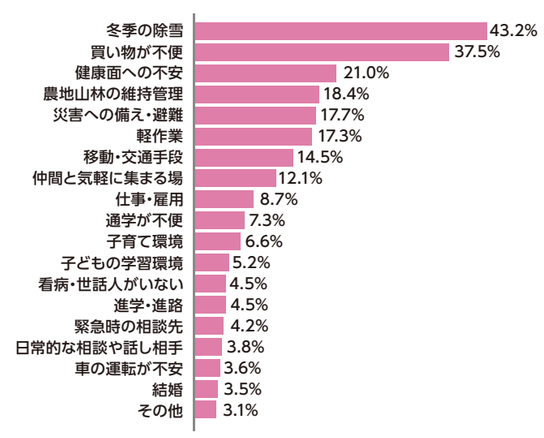
誇りに思う地域資源は何か（地区全体）



誇りに思う地域資源トップ3

①景観・自然環境
②行事
③暮らす人々

日常生活での不安・困っていること（地区全体）



ポイント①

☑ 農業従事者の78.3%が60代以上。

☑ 週末が休日である若手・中堅世代は半分程度

- ▶20～50代は、土曜日が毎週休みなのは1/3程度。日曜日が毎週休みなのは約半数。
- ▶勤め人であっても、土曜日が休みであるとは限らない。パート・アルバイトの約半数が週末は休みではない。

☑ 80代になると自分で車を運転する人の割合が減少。

- ▶80代になると、移動手段は「家族の送迎」の割合が急激に増加する。（女性は70代から）
- ▶送迎する側の人数が減少すると、日常生活での移動が困難になる人の数は、今後、確実に増加する。
- ▶70代は、「買物・通院などの移動手段」が日常生活での不安・困っていることの第5位。

将来的な農地の維持管理は大丈夫か？

70代以上は買物・通院などの移動手段で不安を感じている。

週末が休みではない若手・中堅世代の参加を求めるのであれば、配慮が必要。

ポイント②

☑ コミセン協力金については75.7%が肯定的

- ▶世代間で大きな差はあまりない。

☑ 運動会・放課後児童クラブ・コミセン新聞は、まずまず知られている。

- ▶運動会は約半数、放課後児童クラブ・コミセン新聞は約1/3の住民が知っている。

☑ 10～30代にはコミセンの情報が伝わっていない。

- ▶コミセン新聞は、40代以上は3割以上（60～70代は半数）が知っているものの、10～30代は1割。
- ▶ホームページ・ブログは全体でも6%、10～30代では2～3%しか知らない。

☑ ターゲット層の認知度は十分か？

- ▶親世代である30～40代で、みしまこどもの広場を知っているのは3割程度。
- ▶会食交流会は、参加してほしい世代（70代以上）で知っているのは2割。

情報発信・伝達方法は今のままでよいのか？

ポイント③

☑ 全体の半数以上が「住み続けたいと思う」

- ▶ただし10～20代は低い。半数以上は「わからない」と回答しているので、これからの取り組み次第。
- ▶40代女性・50代女性（母親世代）は地区平均以下。

☑ 「自分の子どもにも住み続けてほしいと思う」は4割弱

- ▶50代以下は3割以下。女性に関しては「思う≦思わない」。ただし、いずれの年代も「わからない」が約半数を占めている。
- ▶子育て中の親世代（40～50代）の不安感・期待の低さが子世代（10～20代）の定住意向に影響している!?

☑ 全体の半数以上が「地域に愛着がある」

- ▶世代間であまり差はない。
- ▶定住意向が低い、10～20代の愛着度は地区平均と同じ割合。40～50代の女性も地区平均より若干低い程度。

若年層の定住意向の低さは、その世代だけの問題か？

愛着があっても定住意向が低いのは、将来への希望・安心感が足りないから？

ポイント④

☑ 誇りに思う地域資源は世代によって異なる

- ▶10～40代は「行事」が地区平均よりも高い傾向。しかし、60～70代は地区平均よりも低い。
- ▶70代以上は「暮らす人々」「助け合いなどの社会関係」が地区平均より高い。（逆に50代以下は地区平均以下）

☑ 日常生活での不安・困りごと上位5つ

①屋根の雪下ろしや玄関先の雪のけなど冬季の除雪
②コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便なこと
③健康面への不安
④農地、山林の維持管理
⑤災害への備えや避難に関すること

☑ これから重点的に取り組むべきテーマ上位5つ

①見回りなど、防犯・交通安全活動
②草刈り・河川清掃など、地域内の環境美化活動
③避難訓練・避難所運営訓練、連絡体制など防災活動
④日常的な不安や悩みが相談できる場や人
⑤防火・救命講習など、消防活動

捉え方に対する世代間ギャップを意識した取り組みが、これからは大切。

日常生活での不安・困りごとの内容をさらに深掘りしていくことが大切。

不安・困りごとは、世代によって上位にランキングされている内容が異なる。少数派世代のものは、丁寧に考慮することが必要。

都岐沙羅パートナーズセンターからの提案

自治の進化を促す 3つのアクション

このアンケート結果の感想 わからないこと、皆で話をしよう

世代別、男女別と細かく話し合いの場をもって考え、意見交換してみよう。意外な発見や思わぬアイディアが飛び出すかも。

行事会議組織の棚卸をしよう

町内の役員などは、仕事量が変わらず人が減ればパンクする。今から、どれくらいの量があるのか把握し、経験やノウハウをオープンにする仕組みを考えよう。

○○してみる

出来そうなことから、小さな実験を繰返そう。実験に失敗はつきもの。うまく行ったら本番。うまくいかなかったら違う方法を考える。まずは○○してみる！

2月21日　アンケート結果報告会

講師　都岐沙羅パートナーズセンター　理事・事務局長
斎藤主税（さいとう ちから）氏

1971年生まれ、新潟市江南区（旧亀田町）出身。1996年、新潟大学大学院工学研究科修士課程修了。同年（株）計画技術研究所に入社し、全国各地の都市計画及び参加型まちづくりのコンサルティング業務に従事。1999年より新潟県岩船地域においてコミュニティビジネスの育成と中間支援NPOの運営を実践。2001年に新潟にUターンし、新潟県内を主なフィールドに幅広い分野・領域の地域づくり事業のコーディネート活動を開始。2004年に（株）計画技術研究所を退社し、以後、NPOの立場から多様な地域づくり事業のプランニング・コーディネート・プロデュース活動に従事。

現在、NPO法人まちづくり学校・理事、NPO法人にいがたエキナン会・副理事長、NPO法人点空社・理事、NPO法人みらいずworks・理事、村上市朝日地区・生活支援コーディネーター（第2層）、他。